

# 吉田卓

よしだ・たかし

画家、二科会会友

## 経歴

生:明治30年(1897年)8月21日、名古屋市生まれ

没:昭和4年(1929年)、2月25日、大阪市阿部橋・田中病院にて没、享年32歳

—	—	広島県立福山中学校(誠之館)中退
—	—	私立正則中学校(東京・神田区)卒業
大正9年(1920年)頃	23歳頃	川崎画学校本郷研究所にて学ぶ
大正11年(1922年)	25歳	《椅子に凭る》が二科美術展(第9回)で初入選
大正12年(1923年)	26歳	《花》を二科美術展覧会(第10回)、聖徳太子奉讃展覧会に出品
大正13年(1924年)	27歳	《静物》を二科美術展覧会(第11回)に出品。東京市外上落合に居住
大正13年(1924年)6月頃	27歳	大阪を旅行
大正14年(1925年)頃	28歳頃	モデルの狩谷時枝(荻谷時枝)と結婚。茨城県高浜町駅前に居
大正14年(1925年)	28歳	《静物》《横たわる裸體》を二科美術展覧会(第12回)に出品
大正14年(1925年)10月	28歳	東京府下長崎村並木1334へ転居
大正15年(1926年)2月	29歳	台湾旅行
大正15年(1926年)	29歳	《子供の居る庭園風景》を聖徳太子奉讃展覧会に出品
大正15年(1926年)	29歳	《裸婦》《腰かける女》《羽扇を持てる裸婦》《立てる裸婦》《横たわれる女》《水さしとパイプのある風景》を二科美術展覧会(第13回)に出品
大正15年(1926年)	29歳	《羽扇を持てる裸婦》で二科賞[佐伯祐三、林重義、木下義謙とともに]
昭和2年(1927年)5月28日 ～昭和2年(1927年)6月3日	30歳	林重義、古賀春江と小品三人展を新宿紀伊国屋ギャラリーで開催
昭和2年(1927年)	30歳	《静物》《爪》《浴後》《裸婦》を二科美術展覧会(第14回)に出品
昭和2年(1927年)	30歳	長男雅彦誕生
昭和3年(1928年)4月6日～ 昭和3年(1928年)4月20日	31歳	《赤衣女像》昭和2年作を中央美術展(第9回、東京府美術館)に出品
昭和3年(1928年)	31歳	《静物》を二科会展覧会(第15回)に無鑑査出品

昭和3年(1928年)	31歳	鈴木信太郎とともに二科会会友に推薦される
昭和3年(1928年)	31歳	臨時久邇宮殿下聖徳太子奉賛美術展覧会委員
昭和3年(1928年)	31歳	日本水彩展覧会会友
昭和3年(1928年)	31歳	中央美術展覧会会友
昭和4年(1929年)2月25日	32歳	大阪市において没
昭和4年(1929年)4月10日～ 昭和4年(1929年)4月20日	—	中央美術会10回展において遺作20点を展示
昭和4年(1929年)5月10日～ 昭和4年(1929年)5月20日	—	吉田卓追悼遺作展(福山医師会館)において、《菊》大正2年、《山家の夕暮》大正6年、吉津村の梨花》大正8年、《睡蓮》大正12年、《薔薇》大正15年、《水さしとパイプのある静物》大正15年、《静物》昭和2年、《福山城》昭和2年、《軺津風景》昭和2年、《花と果物》昭和2年、《ソファに倚る裸婦》昭和2年、《芍薬》昭和2年、《裸婦立像》昭和3年、《郊外風景》昭和3年、《白衣少女像》昭和4年、《横臥裸婦》昭和4年の16点を展示

### 生い立ちと学業、業績

画家。吉田弘蔵の次男(6人姉弟の第5子)として生れる。吉田家は代々家老職をつとめた家柄の旧家。

旧制の福山中学校(誠之館)に通学したが中途退学して上京、神田区の私立正則中学校に転校した。卒業後、川端画学校洋画科に入学、さらに本郷洋画研究所に転じた。

大正11年(1922年)第9回二科展に「椅子に凭る」で初入選、以来、32歳で亡くなる昭和4年(1929年)の第16回展まで連続出品。同時に、日本水彩画会や中央美術展にも出品している。



代表作「裸婦」(ふくやま美術館蔵)

その作風は、初期は緻密な描写からはじまり、堅実な写実、印象派風、セザンヌ風描写、分析的キュビズム、幻想的画風、新古典主義的画風、フォービズム的画風など多様である。

「椅子に凭る」は粗い筆致のフォービスム風の作品だが、翌大正12年(1923年)の出品作「花」は穏健な表現主義的作品である。また大正13年(1924年)頃からは一転して立体主義的画風に変るが、長くは続かず大正14年(1925年)出品の新古典主義的作風の「横たわれる裸婦」を経て、大正15年(1926年)「羽扇を持てる裸婦」により、二科会の最高賞である二科賞を林重義、木下義謙、佐伯祐三とともに受賞。やがて新古典主義的スタイルに表現主義的な筆致を加えながら画風を確立していった。

そして、昭和3年(1928年)第15回展には「裸婦」他を無鑑査出品、鈴木信太郎とともに二科会会友に推薦された。また同年、臨時久邇宮殿下聖徳太子展覧会委員に任じられ、日本水彩展覧会、中央美術展覧会のいずれからも会友にも推挙されている。

これに力を得て、翌昭和4年(1929年)に渡欧を計画し、後援会結成のため関西を旅行中に西宮で発病し、2月25日、大阪市田中病院にて急逝した。

同昭和4年4月、中央美術会第10回展は遺作20点を展示。5月には、福山市医師会館にて追悼遺作展を開催、16点が展示された。

以来62年振りの平成3年(1991年)6月、ふくやま美術館が『大正モダンを駆け抜けた画家 吉田卓展』を開催。これを契機にふくやま美術館では作品収集に着手、現在油彩画8点、水彩画4点、寄託の油彩画2点を所蔵している。

なお、二科入選の数年前から数えても約10年程度の短い作家活動の間に制作された作品は、水彩素描などを含めても千点に満たないと思われるが、戦災による焼失や無名画家の絵として散逸したものが多く、現在までに確認されているのは約70点程度に留まっている。

荒木駿志(昭和30年卒)

### 誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
02882	福山学生会事務所 編	『福山学生会雑誌(第68号)』 「画壇の新人 本会会員 故吉田卓君追悼録」	福山学生会 事務所	昭和4年
03156	ふくやま美術館 編	『大正モダンを駆け抜けた画家 吉田卓展』	ふくやま美術 館	平成3年

出典1:『大正モダンを駆け抜けた画家 吉田卓展』、ふくやま美術館編刊、1991年6月7日

出典2:『福山学生会雑誌(第68号)』、「画壇の新人 本会会員 故吉田卓君追悼録」、福山学生会事務所編刊、昭和4年7月15日

2005年3月2日更新:経歴・関連本●2005年5月19日更新:経歴●2006年6月9日更新:タイトル・所蔵品●2007年1月31日更新:レイアウト●2007年11月20日更新:経歴・本文●2008年7月10日更新:経歴・出典●2009年2月5日更新:レイアウト●